

# 日本慢性期医療協会 急性期機能を有する病棟からの膀胱留置 カテーテル持ち込み患者とその実態につ いての調査

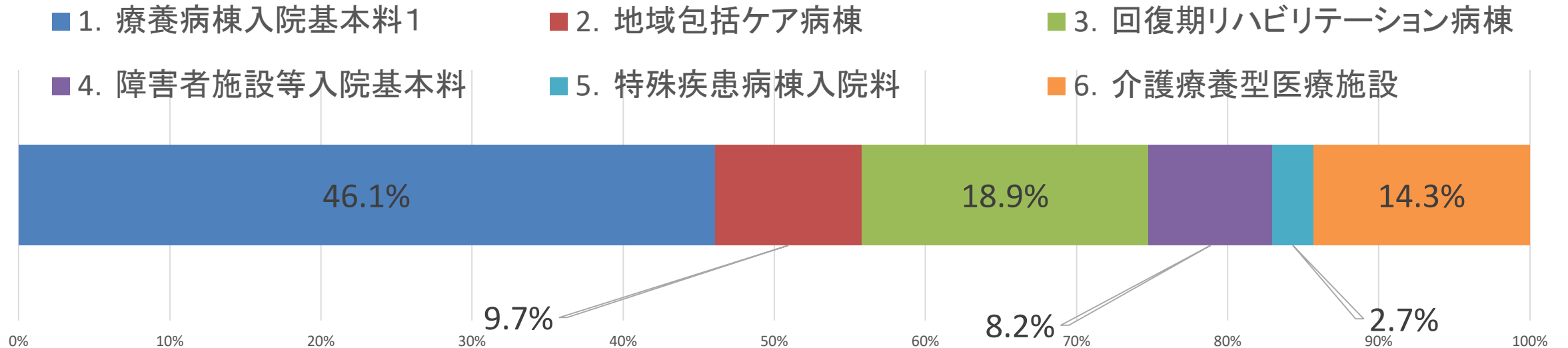
対象病棟：日本慢性期医療協会 会員施設のうち下記の病棟  
療養病棟入院基本料1、地域包括ケア病棟、  
回復期リハビリテーション病棟、障害者施設等入院基本料、  
特殊疾患病棟入院料、介護療養型医療施設

対象患者：2019年9月1日～10月31日（2ヶ月間）に調査対象病棟への  
新規入院患者

回 答：153施設386病棟（病床数計19,677病床）

# 回答病床数 (n=19,677)

	病床数	比率 (%)
1. 療養病棟入院基本料1	9,063	46.1%
2. 地域包括ケア病棟	1,918	9.7%
3. 回復期リハビリテーション病棟	3,728	18.9%
4. 障害者施設等入院基本料	1,616	8.2%
5. 特殊疾患病棟入院料	534	2.7%
6. 介護療養型医療施設	2,818	14.3%

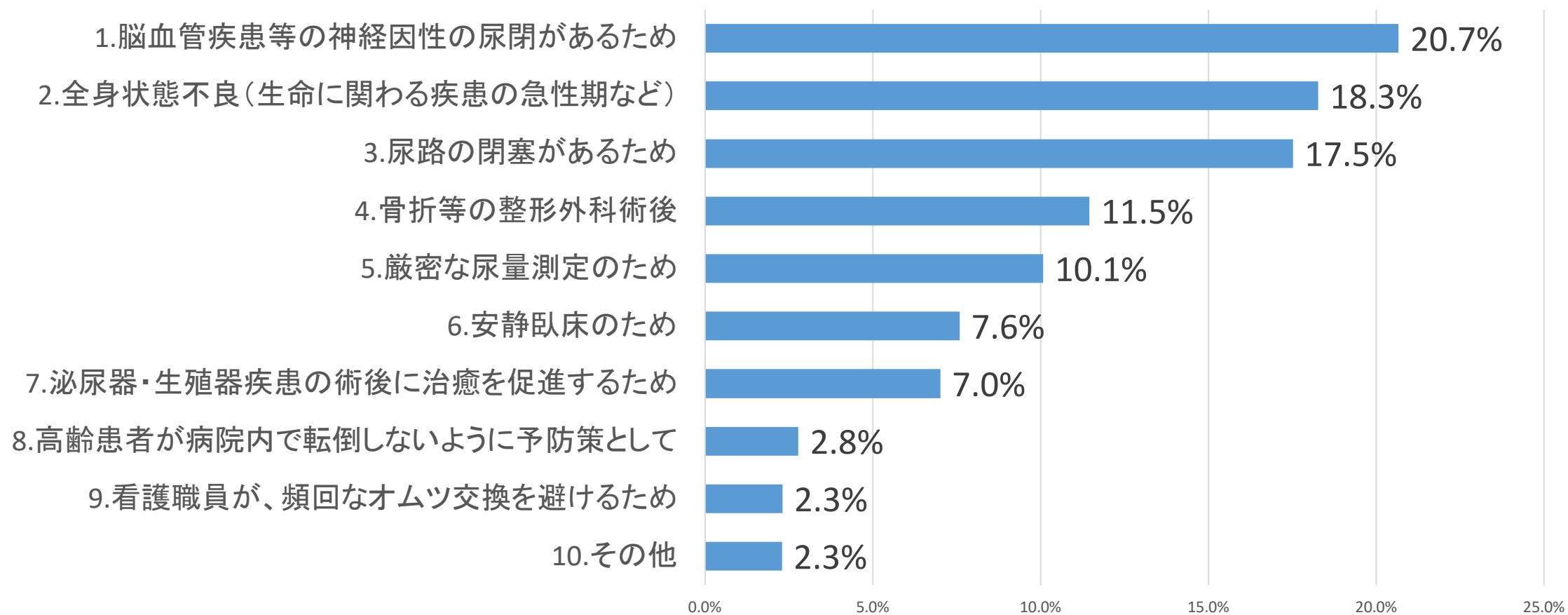


# 1. 持ち込みバルーン挿入患者の急性期機能を有する病棟での膀胱カテーテル留置の理由(多いと思われる理由を多い順に回答。複数回答可)(n=153)

10個の選択肢の選択順に重みを付けて評価(例:順位1位なら10ポイント、2位なら9ポイント)

	ポイント	比率(%)
1. 脳血管疾患等の神経因性の尿閉があるため	1,261	20.7
2. 全身状態不良(生命に関わる疾患の急性期など)	1,115	18.3
3. 尿路の閉塞があるため	1,069	17.5
4. 骨折等の整形外科術後	699	11.5
5. 厳密な尿量測定のため	615	10.1
6. 安静臥床のため	463	7.6
7. 泌尿器・生殖器疾患の術後に治癒を促進するため	428	7.0
8. 高齢患者が病院内で転倒しないように予防策として	170	2.8
9. 看護職員が、頻回なオムツ交換を避けるため	141	2.3
10. その他	140	2.3

# 1. 持ち込みバルーン挿入患者の急性期機能を有する病棟での膀胱カテーテル留置の理由(多いと思われる理由を多い順に回答。複数回答可)(n=153)

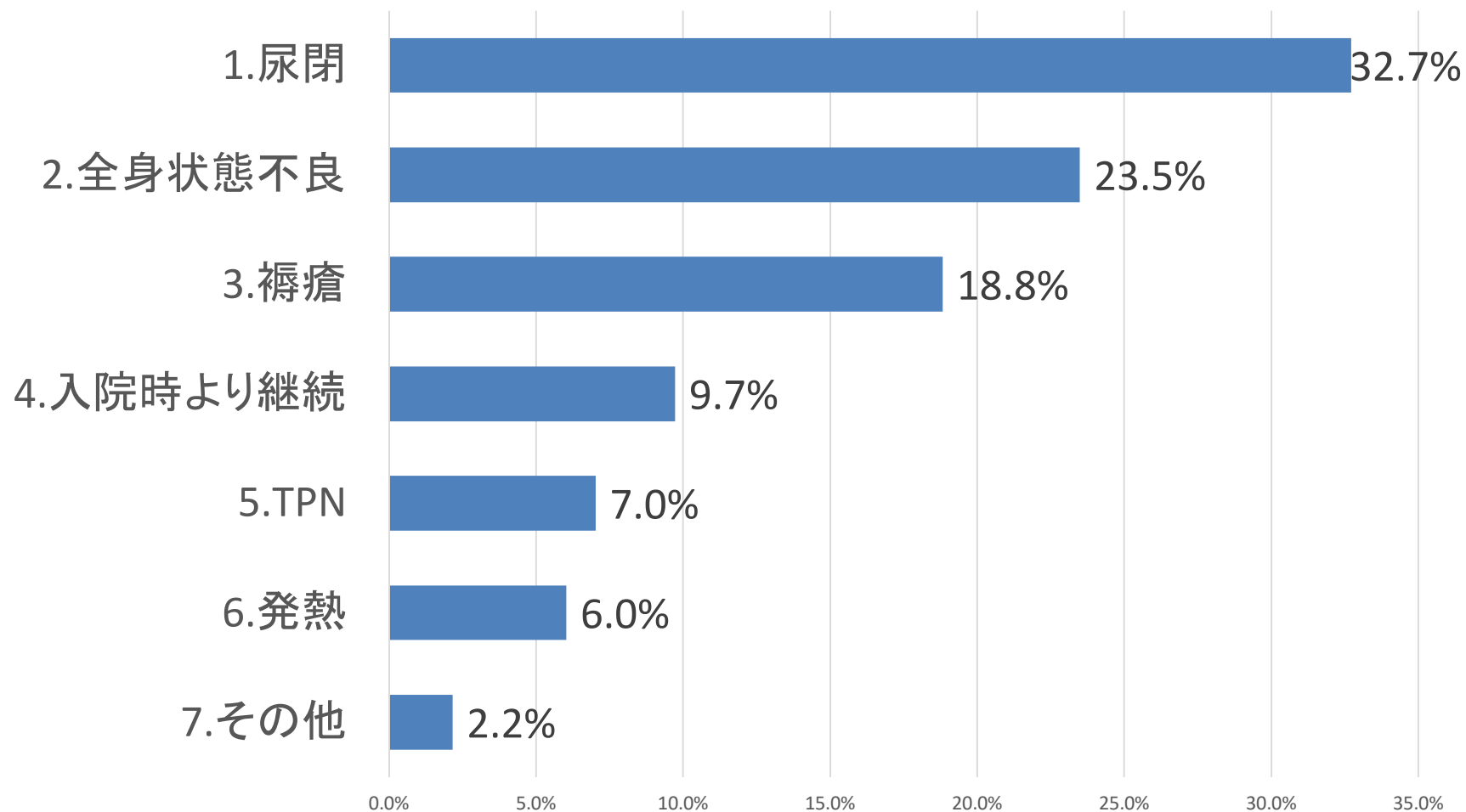


## 2. バルーン挿入継続中の患者について、抜去が困難である理由（抜去困難な理由を多い順に回答。複数回答可）（n=152）

7個の選択肢の選択順に重みを付けて評価（例：順位1位なら7ポイント、2位なら6ポイント）

	ポイント	比率(%)
1. 尿閉	982	32.7
2. 全身状態不良	705	23.5
3. 褥瘡	565	18.8
4. 入院時より継続	292	9.7
5. TPN	211	7.0
6. 発熱	181	6.0
7. その他	65	2.2

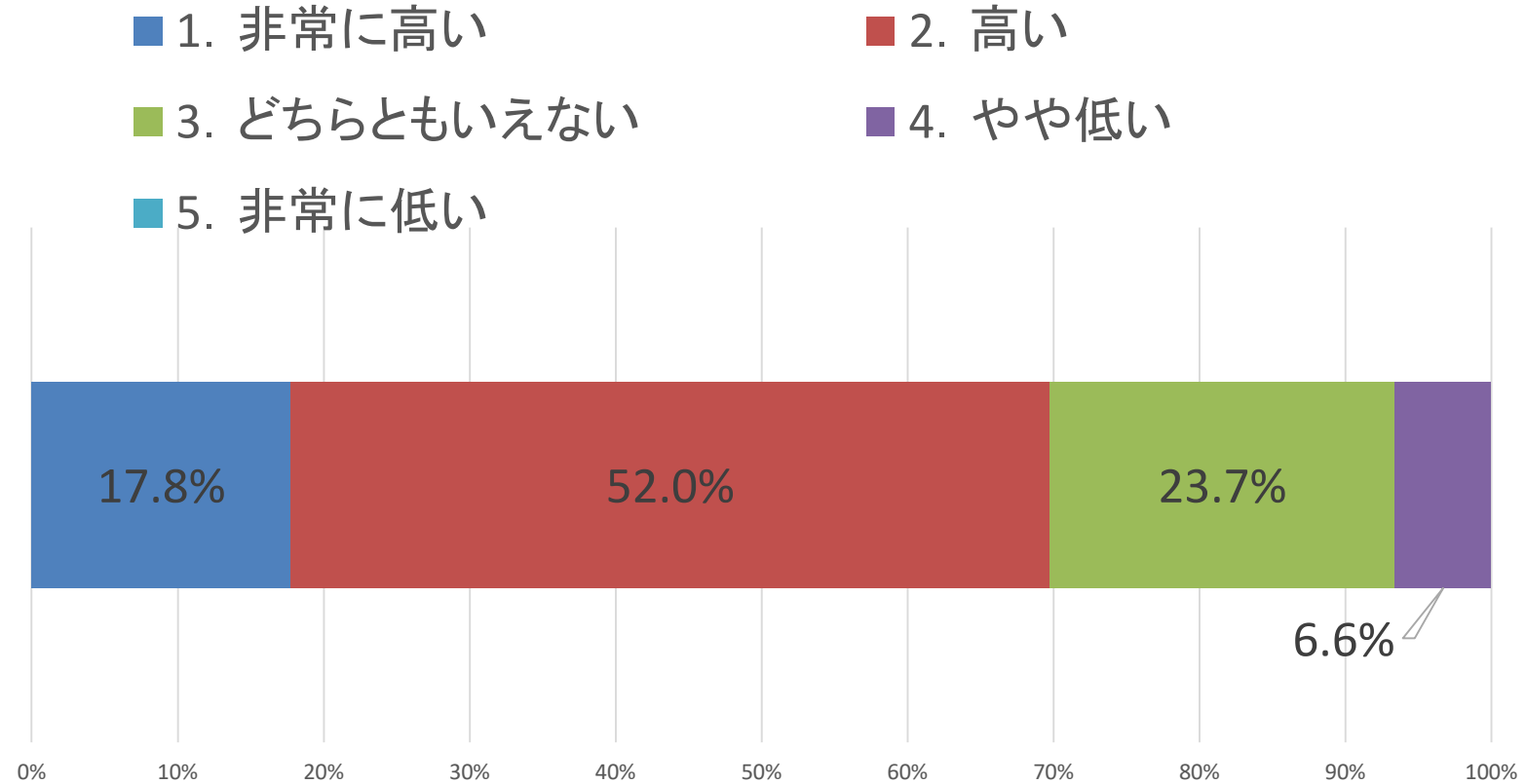
## 2. バルーン挿入継続中の患者について、抜去が困難である理由（抜去困難な理由を多い順に回答。複数回答可）（n=152）



### 3. 職員のバルーン抜去への意識の高さ(n=152)

	施設数	比率(%)
1. 非常に高い	27	17.8
2. 高い	79	52.0
3. どちらともいえない	36	23.7
4. やや低い	10	6.6
5. 非常に低い	0	0.0

### 3. 職員のバレーン抜去への意識の高さ(n=152)

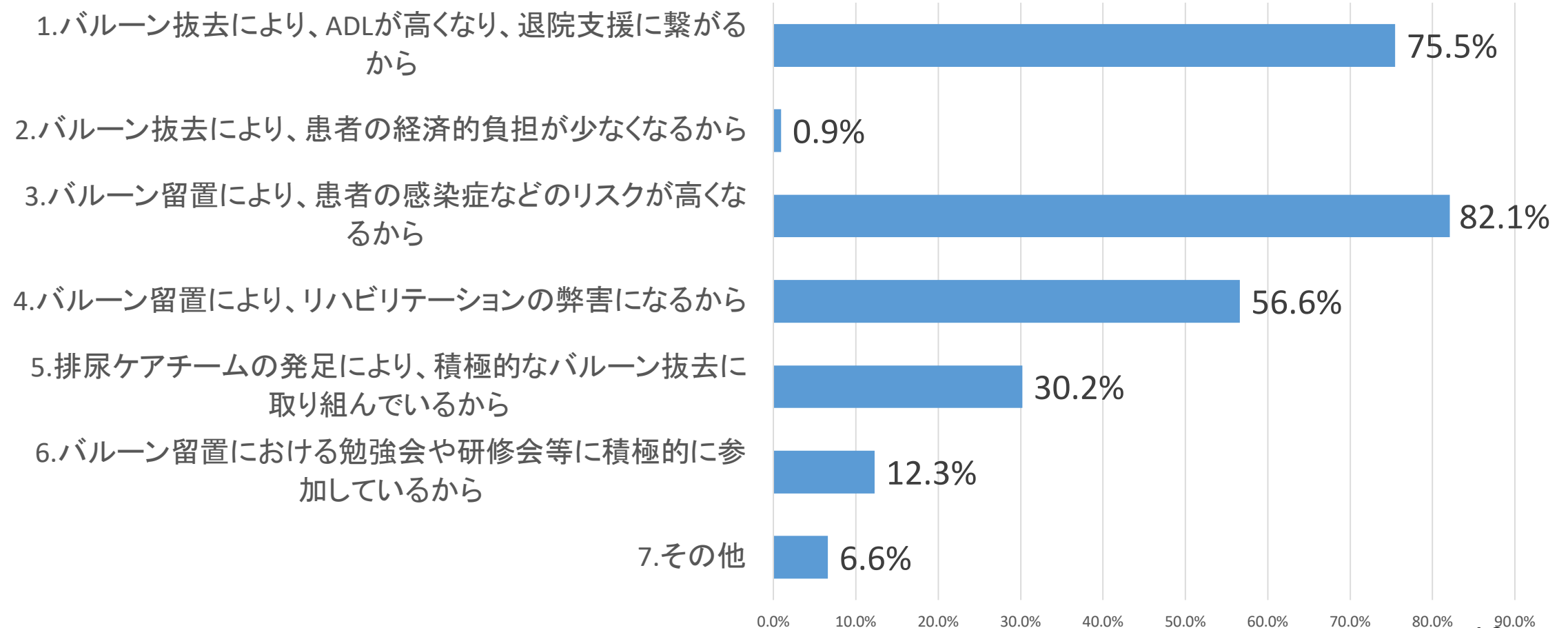




## 4. 職員のバルーン抜去への意識の高さについて「非常に高い」もしくは「高い」と回答した理由（複数回答可）（n = 106）

	回答数	比率(%)
1.バルーン抜去により、ADLが高くなり、退院支援に繋がるから	80	75.5
2.バルーン抜去により、患者の経済的負担が少なくなるから	1	0.9
3.バルーン留置により、患者の感染症などのリスクが高くなるから	87	82.1
4.バルーン留置により、リハビリテーションの弊害になるから	60	56.6
5.排尿ケアチームの発足により、積極的なバルーン抜去に取り組んでいるから	32	30.2
6.バルーン留置における勉強会や研修会等に積極的に参加しているから	13	12.3
7.その他	7	6.6

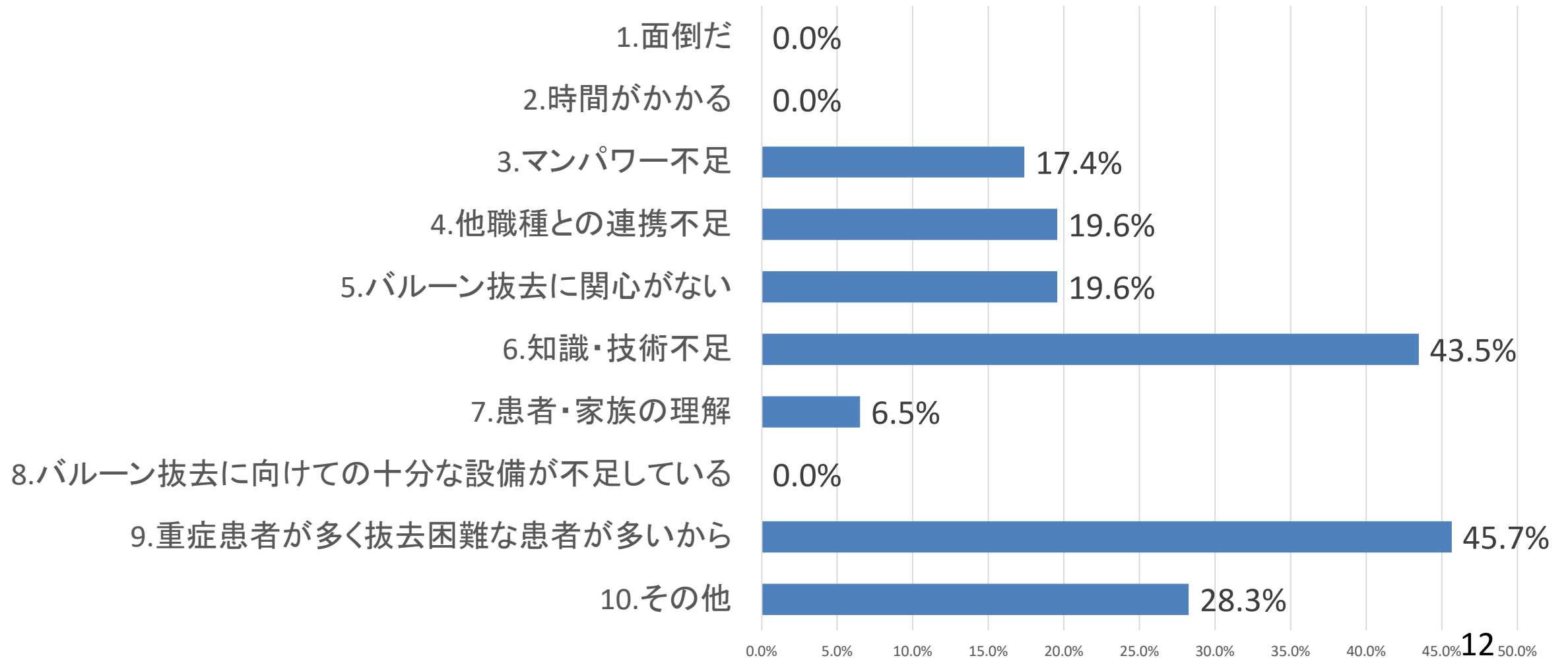
## 4. 職員のバルーン抜去への意識の高さについて「非常に高い」もしくは「高い」と回答した理由（複数回答可）（n = 106）



## 5. 職員のバルーン抜去への意識の高さで「どちらともいえない」、「やや低い」、「非常に低い」のいずれかを回答した理由(複数選択可)(n=46)

	回答数	比率
1.面倒だ	0	0.0
2.時間がかかる	0	0.0
3.マンパワー不足	8	17.4
4.他職種との連携不足	9	19.6
5.バルーン抜去に関心がない	9	19.6
6.知識・技術不足	20	43.5
7.患者・家族の理解	3	6.5
8.バルーン抜去に向けての十分な設備が不足している	0	0.0
9.重症患者が多く抜去困難な患者が多いから	21	45.7
10.その他	13	28.3

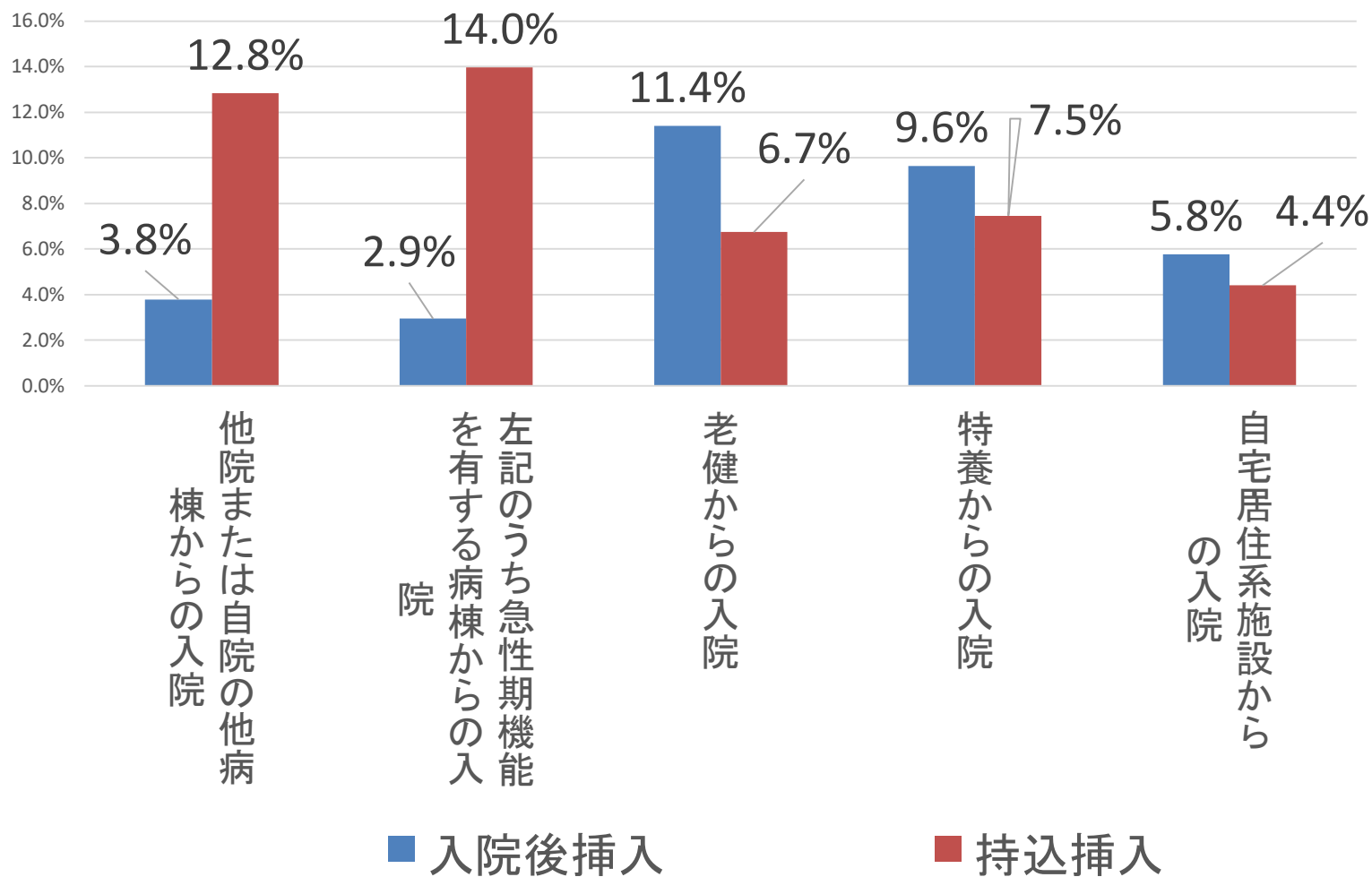
## 5. 職員のバルーン抜去への意識の高さで「どちらともいえない」、「やや低い」、「非常に低い」のいずれかを回答した理由(複数選択可)(n=46)



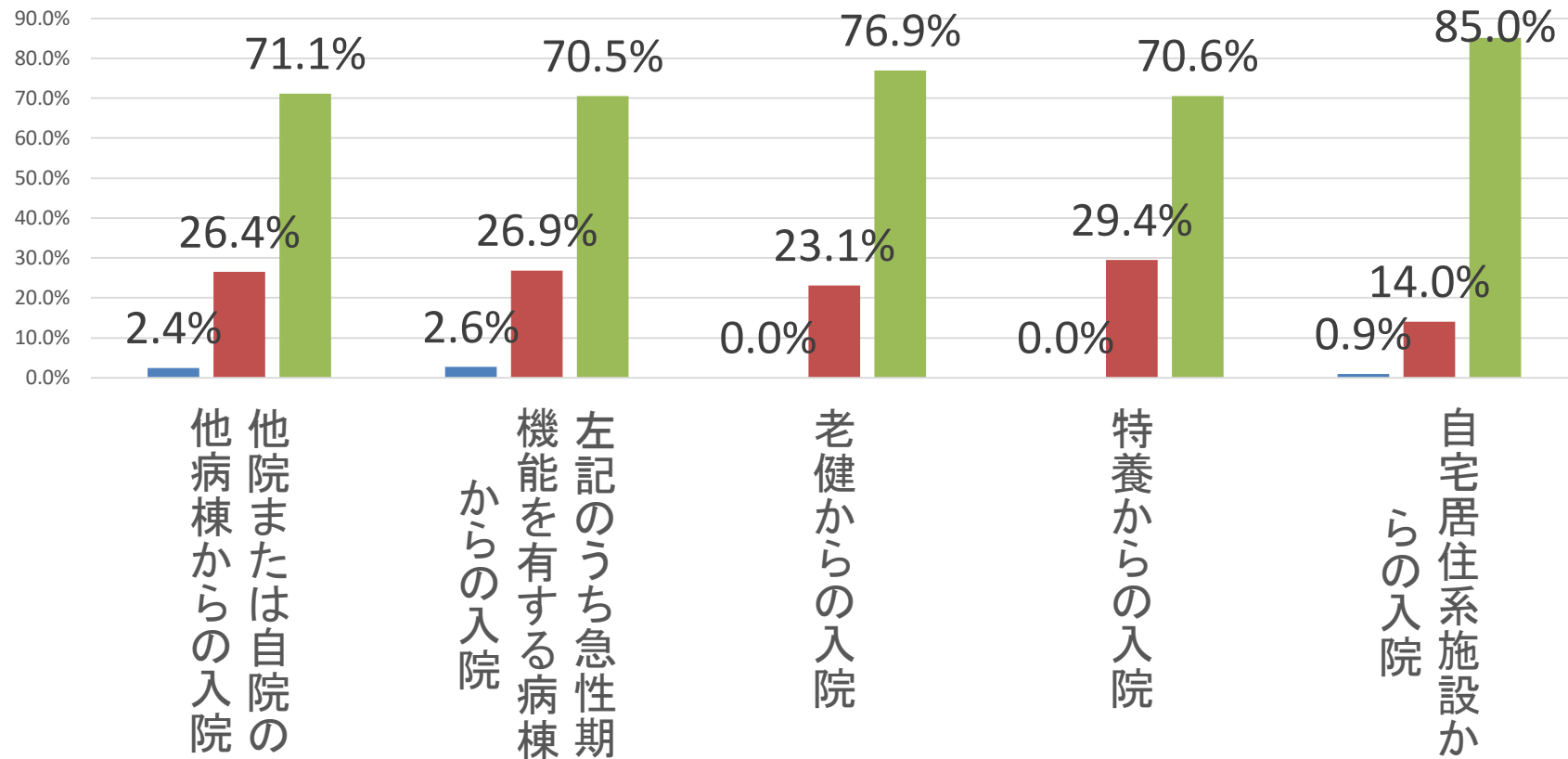
## 6. 令和元年9月1日～10月31日の2ヶ月間に、 回答病棟に新規入院(院内転棟含)した患者に ついて(n=10,198)

	対象期間に 新規入院し た患者数	貴病棟に入院後バ ルーンを挿入した 患者		持ち込みバルーン 挿入患者数		入院当日にバル ーンを抜去した患者 数		入院翌日以降に抜 去した患者数		バルーン挿入継続 中の患者数(抜去 不可)。挿入したま ま退院した患者を 含む * 11月30日 現在	
		患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%
他院または自院の他病 棟からの入院総数	7,347	278	3.8	942	12.8	23	2.4	249	26.4	670	71.1
上記のうち急性期機 能を有する病棟から の入院	4,874	143	2.9	681	14.0	18	2.6	183	26.9	480	70.5
老健からの入院	193	22	11.4	13	6.7	0	0.0	3	23.1	10	76.9
特養からの入院	228	22	9.6	17	7.5	0	0.0	5	29.4	12	70.6
自宅・居住系施設からの 入院	2,430	140	5.8	107	4.4	1	0.9	15	14.0	91	85.0

# 6-1. 令和元年9月1日～10月31日の2ヶ月間に、回答病棟に新規入院(院内転棟含)した患者について バルーン挿入の状況(n=10,198)



## 6-2. 令和元年9月1日～10月31日の2ヶ月間に、回答病棟に新規入院(院内転棟含)した持ち込みバルーン挿入患者について バルーン抜去の状況 (n=1,079)



■ 入院当日にバルーンを抜去した患者数

■ 入院翌日以降に抜去した患者数

■ バルーン挿入継続中の患者数(抜去不可)。挿入したまま退院した患者を含む \* 11月30日現在

### 6-3. 令和元年9月1日～10月31日の2ヶ月間に、回答病棟に新規入院（院内転棟含）した持ち込みバルーン挿入患者について 入院してからバルーン抜去までにかかった平均日数（病棟数）（n=233）

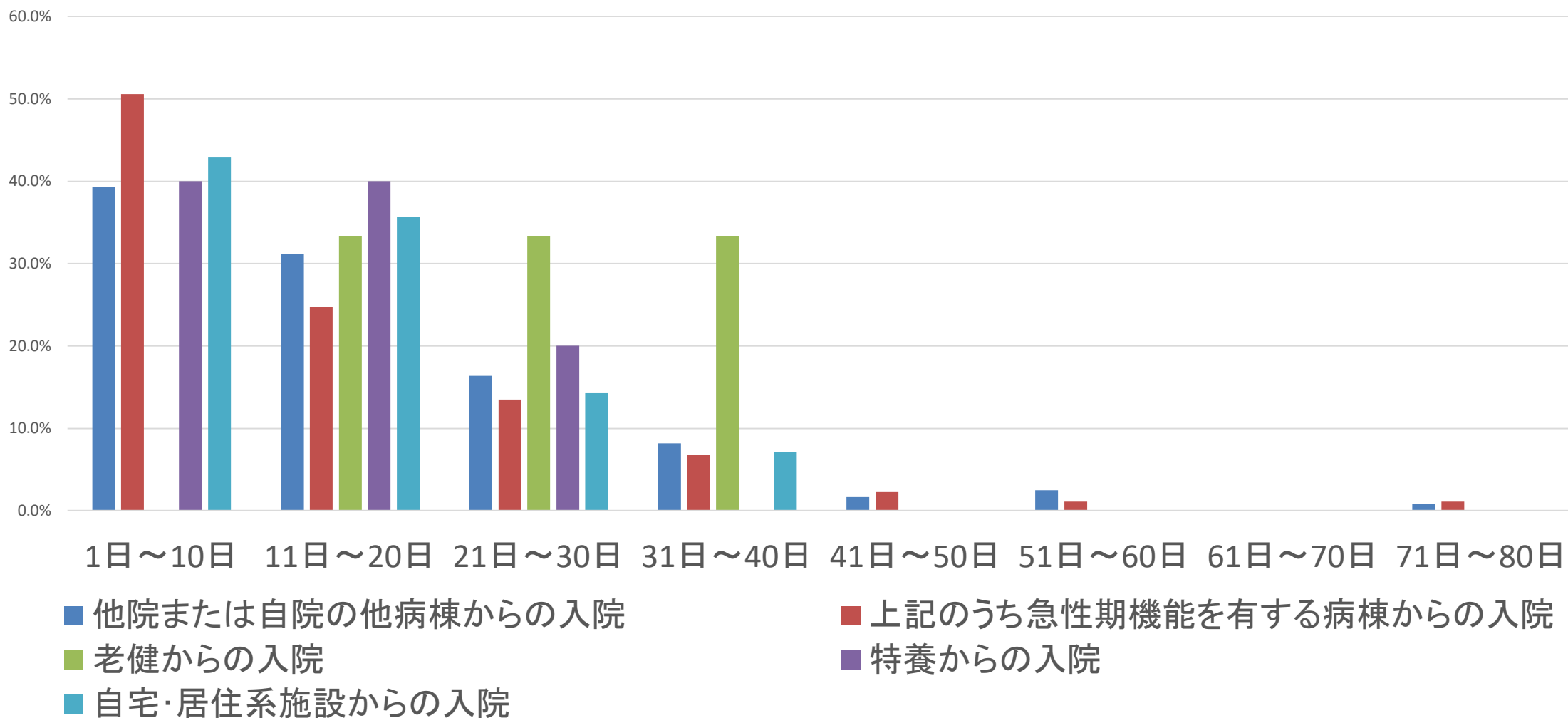
	回答 病棟 数	1日～ 10日	11日 ～20 日	21日 ～30 日	31日 ～40 日	41日 ～50 日	51日 ～60 日	61日 ～70 日	71日 ～80 日
他院または自院の他病棟からの入院総数	122	48	38	20	10	2	3	0	1
上記のうち急性期機能を有する病棟からの入院	89	45	22	12	6	2	1	0	1
老健からの入院	3	0	1	1	1	0	0	0	0
特養からの入院	5	2	2	1	0	0	0	0	0
自宅・居住系施設からの入院	14	6	5	2	1	0	0	0	0



### 6-3. 令和元年9月1日～10月31日の2ヶ月間に、回答病棟に新規入院（院内転棟含）した持ち込みバルーン挿入患者について 入院してからバルーン抜去までにかかった平均日数（比率（％））（n=233）

	回答 病棟 数	1日～ 10日	11日 ～20 日	21日 ～30 日	31日 ～40 日	41日 ～50 日	51日 ～60 日	61日 ～70 日	71日 ～80 日
他院または自院の他病棟からの入院総数	122	39.3	31.1	16.4	8.2	1.6	2.5	0.0	0.8
上記のうち急性期機能を有する病棟からの入院	89	50.6	24.7	13.5	6.7	2.2	1.1	0.0	1.1
老健からの入院	3	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
特養からの入院	5	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
自宅・居住系施設からの入院	14	42.9	35.7	14.3	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0

### 6-3. 令和元年9月1日～10月31日の2ヶ月間に、回答病棟に新規入院(院内転棟含)した持ち込みバルーン挿入患者について 入院してからバルーン抜去までにかかった平均日数(比率(%))(n=233)

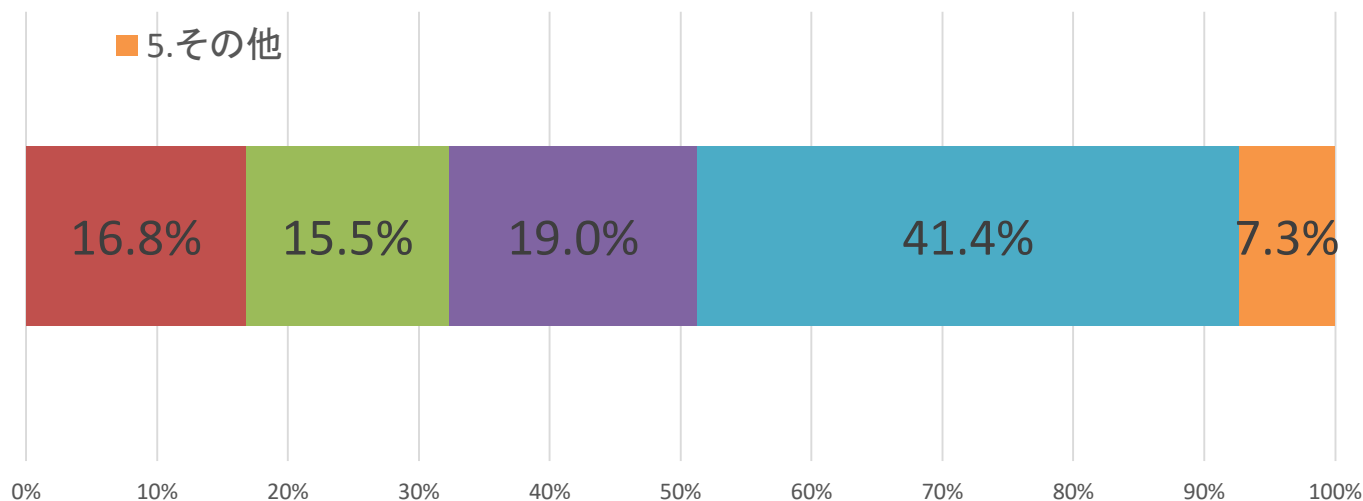


## 7. 令和元年9月1日～10月31日の2ヶ月間に、回答病棟に新規入院（院内転棟含）した持ち込みバルーン挿入患者について、回答病棟に入院後にバルーン抜去に至った患者の抜去後の排泄手段とその後の排泄訓練状況（n=232）

	患者数	比率（%）
1.抜去後、排泄訓練を実施せずとも、自分でトイレへ。	39	16.8
2.抜去後、排泄訓練を実施し、オムツが外れ、自分でトイレへ。	36	15.5
3.抜去後、排泄訓練を実施したが、オムツのまま介助を受けている。	44	19.0
4.抜去後、排泄訓練を実施しておらず、オムツのまま介助を受けている。	96	41.4
5.その他	17	7.3

## 7. 令和元年9月1日～10月31日の2ヶ月間に、回答病棟に新規入院（院内転棟含）した持ち込みバルーン挿入患者について、回答病棟に入院後にバルーン抜去に至った患者の抜去後の排泄手段とその後の排泄訓練状況（n=232）

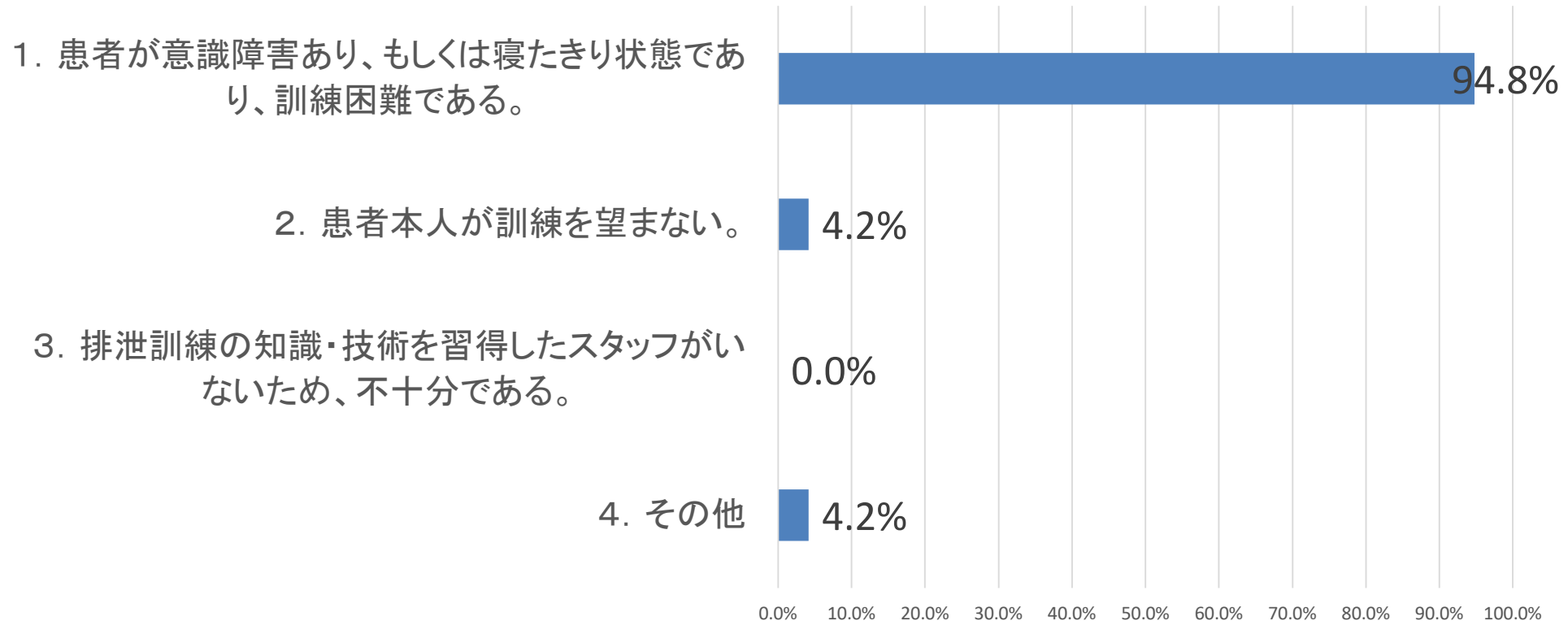
- 1. 抜去後、排泄訓練を実施せずとも、自分でトイレへ。
- 2. 抜去後、排泄訓練を実施し、オムツが外れ、自分でトイレへ。
- 3. 抜去後、排泄訓練を実施したが、オムツのまま介助を受けている。
- 4. 抜去後、排泄訓練を実施しておらず、オムツのまま介助を受けている。
- 5. その他



8. 令和元年9月1日～10月31日の2ヶ月間に、回答病棟に新規入院(院内転棟含)した持ち込みバルーン挿入患者について、回答病棟に入院後にバルーン抜去に至った患者の抜去後の排泄手段とその後の排泄訓練状況で「抜去後、排泄訓練を実施しておらず、オムツのまま介助を受けている。」と回答した理由(複数選択可)(n=96)

	患者数
1. 患者が意識障害あり、もしくは寝たきり状態であり、訓練困難である。	91
2. 患者本人が訓練を望まない。	4
3. 排泄訓練の知識・技術を習得したスタッフがいないため、不十分である。	0
4. その他	4

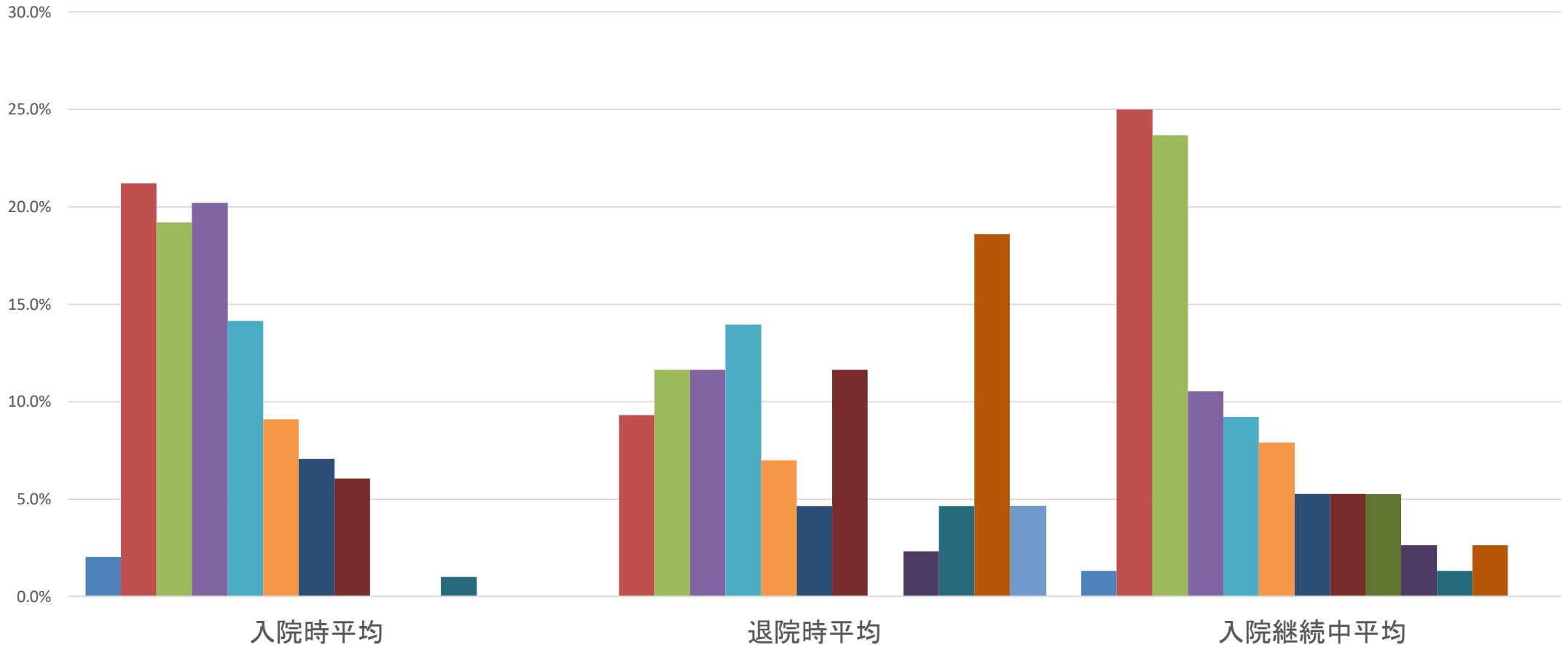
8. 令和元年9月1日～10月31日の2ヶ月間に、回答病棟に新規入院(院内転棟含)した持ち込みバルーン挿入患者について、回答病棟に入院後にバルーン抜去に至った患者の抜去後の排泄手段とその後の排泄訓練状況で「抜去後、排泄訓練を実施しておらず、オムツのまま介助を受けている。」と回答した理由(複数選択可)(n=96)



9. 令和元年9月1日～10月31日の2ヶ月間に、他院または自院の他病棟からバルーン挿入の状態での入院し、入院中に**バルーン抜去に至った患者**について、入院時と、退院時または11月30日時点の平均FIMの点数(FIM総合)(n=99)

	入院時平均		退院時平均		入院継続中平均	
	病棟数	比率(%)	病棟数	比率(%)	病棟数	比率(%)
1点～10点	2	2.0	0	0.0	1	1.3
11点～20点	21	21.2	4	9.3	19	25.0
21点～30点	19	19.2	5	11.6	18	23.7
31点～40点	20	20.2	5	11.6	8	10.5
41点～50点	14	14.1	6	14.0	7	9.2
51点～60点	9	9.1	3	7.0	6	7.9
61点～70点	7	7.1	2	4.7	4	5.3
71点～80点	6	6.1	5	11.6	4	5.3
81点～90点	0	0.0	0	0.0	4	5.3
91点～100点	0	0.0	1	2.3	2	2.6
101点～110点	1	1.0	2	4.7	1	1.3
111点～120点	0	0.0	8	18.6	2	2.6
121点～130点	0	0.0	2	4.7	0	0.0
	99	100.0	43	100.0	76	100.0

9. 令和元年9月1日～10月31日の2ヶ月間に、他院または自院の他病棟からバルーン挿入の状態入院し、入院中に**バルーン抜去に至った患者**について、入院時と、退院時または11月30日時点の平均FIMの点数(FIM総合)(比率%)(n=99)



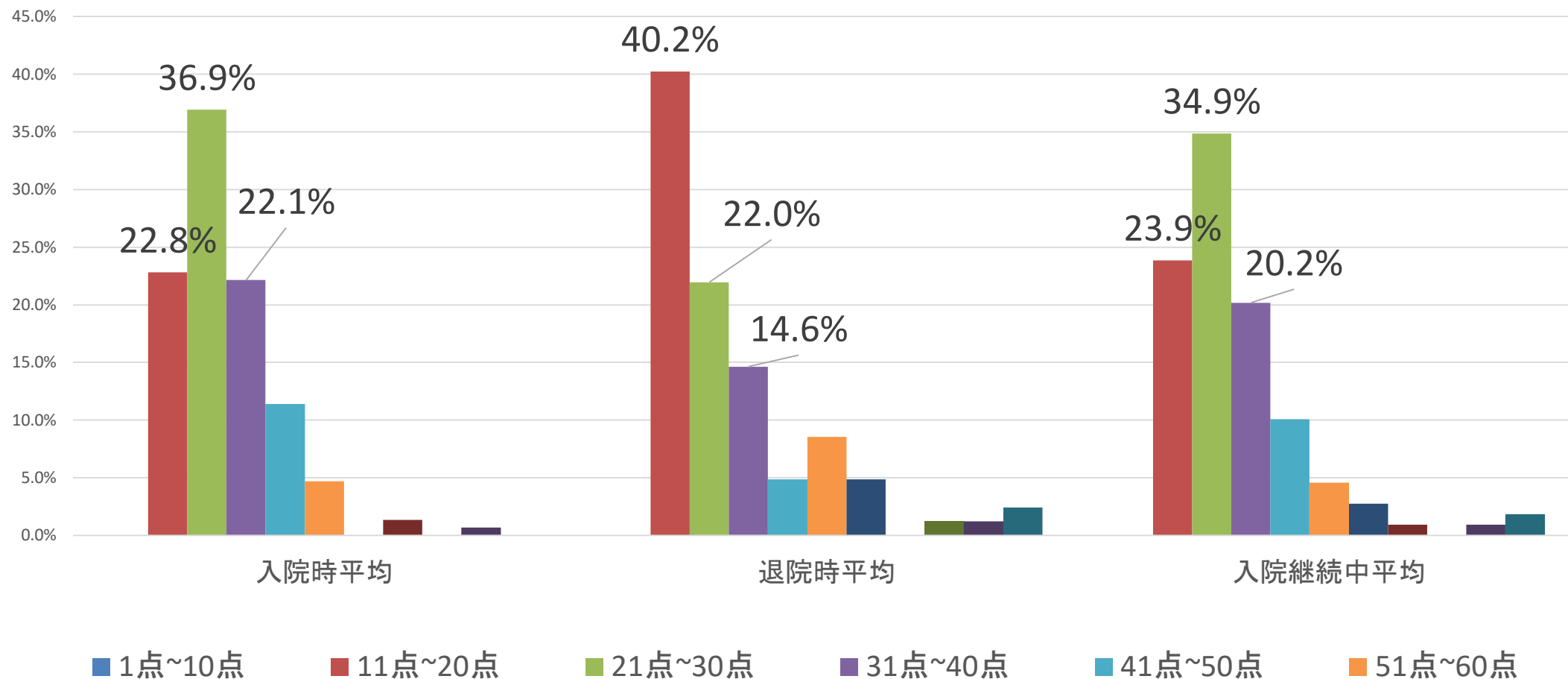
■ 1-10 ■ 11-20 ■ 21-30 ■ 31-40 ■ 41-50 ■ 51-60 ■ 61-70 ■ 71-80 ■ 81-90 ■ 91-100 ■ 101-110 ■ 111-120 ■ 121-130



10. 令和元年9月1日～10月31日の2ヶ月間に、他院または自院の他病棟からバルーン挿入の状態での入院し、**バルーン挿入継続中(抜去が困難)**の患者について、入院時と退院時または11月30日時点の平均FIMの点数(FIM総合)(n=149)

	入院時平均		退院時平均		入院継続中平均	
	病棟数	比率(%)	病棟数	比率(%)	病棟数	比率(%)
1点～10点	0	0.0	0	0.0	0	0.0
11点～20点	34	22.8	33	40.2	26	23.9
21点～30点	55	36.9	18	22.0	38	34.9
31点～40点	33	22.1	12	14.6	22	20.2
41点～50点	17	11.4	4	4.9	11	10.1
51点～60点	7	4.7	7	8.5	5	4.6
61点～70点	0	0.0	4	4.9	3	2.8
71点～80点	2	1.3	0	0.0	1	0.9
81点～90点	0	0.0	1	1.2	0	0.0
91点～100点	1	0.7	1	1.2	1	0.9
101点～110点	0	0.0	2	2.4	2	1.8
	149	100.0	82	100.0	109	100.0

10. 令和元年9月1日～10月31日の2ヶ月間に、他院または自院の他病棟からバルーン挿入の状態入院し、**バルーン挿入継続中(抜去が困難)**の患者について、入院時と退院時または11月30日時点の平均FIMの点数(FIM総合)(比率%)(n=149)



11. 令和元年9月1日～10月31日の2ヶ月間に、他院または自院の他病棟からバルーン挿入の状態での入院し、入院中にバルーン抜去に至った退院患者およびバルーン挿入継続中(抜去が困難)の退院患者のそれぞれの平均入院日数(比率%)

抜去後退院(n=39)

	病棟数	比率(%)
1日-10日	1	2.6
11日-20日	1	2.6
21日-30日	7	17.9
31日-40日	6	15.4
41日-50日	9	23.1
51日-60日	12	30.8
61日-70日	0	0.0
71日-80日	2	5.1
81日-90日	1	2.6

挿入継続退院(n=75)

	病棟数	比率(%)
1日-10日	8	10.7
11日-20日	14	18.7
21日-30日	15	20.0
31日-40日	15	20.0
41日-50日	8	10.7
51日-60日	7	9.3
61日-70日	4	5.3
71日-80日	2	2.7
81日-90日	2	2.7

# 11. 令和元年9月1日～10月31日の2ヶ月間に、他院または自院の他病棟からバルーン挿入の状態での入院し、入院中にバルーン抜去に至った退院患者およびバルーン挿入継続中(抜去が困難)の退院患者のそれぞれの平均入院日数(比率%)

